

“ふじのくに”士民協働事業仕分け結果（事業別個表）

事業番号	25	事業名	学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業費
------	----	-----	---------------------------

1 基本情報

実施日／班名	10月14日 第2班	時間	15:25～16:28
担当課名	教育委員会社会教育課	事業費	39,439千円

2 判定結果

結果	県民評価者 判定内訳(人)			
県の関与必要 (見直し・縮小)	判定区分	県の関与不要	3	
		県の関与必要	見直し・縮小	19
			現行・拡充	9
	判定理由	結果と同一区分を判定した県民評価者の主な判定理由（人、複数回答有）		
		事業効果の把握・検証方法や目標の設定方法を見直すべき		13
		県の役割(市町、関係団体、県民等との役割分担)を見直すべき		9
効果がない、低い、不明確なため、事業内容を見直すべき		5		
事業の効率化を図りコストを縮減すべき		4		
他の事業との関係を整理すべき		3		

3 具体的な見直し・改善策又はその他意見

【県の関与不要】

- ・県よりも市町、学校、PTA、子ども会が連携すべき。目的や具体的な活動が不明確で、どう役立っているのか疑問。こども未来課、こども家庭課、社会教育課のやっていることがかぶっていて無駄が多いのではないかと。細分化している割に、プロ根性が見えない。
- ・コーディネーターはボランティアが良い。現状から解釈すると有志でコーディネーターになる手段が無い。行政ではなく地域住民で協力していくべきと思う。

【県の関与必要（見直し・縮小）】

- ・学校が開かれた環境になるような仕組み、取組ができれば良いと思う。支援、研修が重複することは好ましくない。他部局とも連携して効率アップを望みます。例えば、コーディネーター研修、児童委員研修等。対象とする年齢による区分範囲は大人の都合。
- ・もっと県として積極的に取り組むべきだと思います。事業費だけではない、事業内容について地域の理解を得ることから次の展開があると思います。
- ・プランをどう地域の人に知らせ、参加をしてもらえるか工夫をしたらよい。
- ・コーディネーターよりも地域ボランティアを大いに活用する。
- ・小中学校を卒業してそこで終わってしまうのではなく、そこから地域の人として学校に協力することでつながっていく。大人の視点ではなく、子どもと年の近い人(大学生など)の視点から見ることも必要。
- ・学校がいかに楽しいか、先生、PTA、OB等をもっと活用し、双方のコミュニケーションを取ることが良いと思う。

- ・地域住民、特に高齢者を使うことを考えるべき。元教員、有識者も多いだろうから。高齢者福祉課等、県の他の部署との連携もあるのでは？
- ・子どもの安全確保を含めて、地元商店街の参画を促す。ボランティア組織もゴルフ、野球等の市民グループの参画を促す。
- ・PTA会長経験者として、PTA役員の期間はPTA活動の勉強期間です。勉強が終わったところで引退です。この人材を積極的に活用すべきだと思います。地域との連携は、校長、教員の資質が大きいと思います。
- ・学校とPTAなどとの関係を深めていただきたい。
- ・地元住民を有効利用すると良いと思う。教育現場の実態把握が不十分に感じる。
- ・教育支援活動促進があまり活かされていない。
- ・お金をかけずに出来ることを考えてほしい。
- ・放課後だけでなく、週末、学校の代休の日でも子どもたちが安心して過ごせる場の確立を希望します。学校、地域交流の行事を土曜日に行うことが多いです。そうすると、月曜日が代休になり、学校、子どもが休みでも家庭の両親は仕事のため、子どもだけが取り残されてしまいます。そういう時にこそ、地域との連携、助け合いで問題も解消されるのではないかと思います。
- ・(土日についてですが)せっかく行っているので、親の意識も変えていけたら、もっと子どもたちの体験も増やしてあげられると思う。子ども教室を面倒に思っている親が結構いると思います。
- ・「放課後」子ども教室という名称であるにもかかわらず、「放課後」ではなく週末に実施されている点に違和感がありました。

【県の関与必要（現行・拡充）】

- ・地域全体での育成は、DV、育児放棄、いじめの早期発見にも有効であり、地域住民の教育に対する理解も進むため重要なことだと思う。このような事業を行っていることを知らなかったので、広報を行うことも必要だと思う。
- ・いじめの問題、モラル低下など学校教育ではなかなか教えられないのが現状だと思います。地域で子どもを育てるという考え方、取組は必要であると考えます。このような活動に参加する学校、地域の人、子どもたちが増えていくことが望ましいことであり、そのための努力をお願いしたいと思います。体験教室などは子どもたちにとっても楽しいことでもあり、その中から得るものがたくさんありそうです。
- ・専門委員の方が言われるように、校長先生の考えで随分変わることを実感します。12年前から(学校が週5日制になる前年)、「地域の資源を活用して21世紀を担う子どもたちを、地域のボランティアで育てよう」と「とみつか未来塾」を開催し、様々な活動の中で月1回川のごみ拾いをしています。スタート時点の校長先生がとても理解してくださり、担当の先生までつけていただき、毎回中学生が(毎月第2土曜日9時～10時)参加してくれました。籾からのお米作りの収穫祭(11月)や開講式(4月)、閉講式(2月)にも日曜日にもかかわらず参加してくださり、市の河川課も参加くださいました。このイベントには静大ボランティアサークルの方も参加していただき、子どもたち(50人くらい、0歳～小6まで)は大喜びです。次第に校長先生が代われ、理解はありますが、こちらから何回お声かけても学校の先生が忙しくて行事に取り入れていただけない。是非、このような地域のボランティアグループを地域の教育力として活用していただきたい。協力したいとの思いが一杯なので、残念で仕方ありません。
- ・専門委員の提案に謙虚に対応すべき。改善案を創案すべき。
- ・父兄を学校に定期的に集め意見交換する。モンスターにはその場で決まったことにする。
- ・学校、家庭、地域住民の連携が今現在取れていないと思うので、更なる努力を願います。地域の人々の理解を得るため、学校からの支援の方策を住民に普段から取ってほしい。
- ・今回の事業については、実施すべき。今後、活発化する施策を作ってほしい。(アンケート実施など)
- ・モンスターペアレントに先生が対応するには無理がある。地域の総意で物事を決めるべきである。